

ユネスコ創造都市ネットワーク報告書（モニタリングレポート）の提出について

1. 趣旨

ユネスコ創造都市ネットワーク（以下、UCCN）が提唱する持続可能な都市発展へ貢献した取り組みについて、加盟都市は4年毎にユネスコ事務局へ報告書を提出しなければならない。

本市は2014年12月にUCCN音楽分野へ加盟し、加盟後4年間に取り組んだ様々な創造都市事業の成果を報告する。この報告書はユネスコ事務局に対して本市のUCCNへの貢献を示すとともに、2019に開催するUCCN年次総会で180を超える加盟都市代表者に向けて公表されるため、本市が取り組んできた創造都市施策を世界へ発信する大きな契機となる。

2. スケジュール

11月30日まで ユネスコ事務局へEメールで提出（PDFデータで送付）

3. ユネスコ事務局から示されているガイドライン

- 12月～2月にステアリンググループ（UCCNの7分野の代表都市から構成される運営グループ）が各都市の報告書を評価
- ステアリンググループは以下の項目を評価の上、総合評価（優秀、満足、不満足）を行う

【評価項目】

- ・ UCCNの活動への参加レベル（高・中・低の3段階）
- ・ 地域レベルの取り組みの質と量（1～5の5段階）
- ・ 都市間の協力により実施された取り組みの質と量（1～5の5段階）
- ・ 今後4年間のアクションプランの質（1～5の5段階）
- ・ ベストプラクティス（良い事例）の選定
- ・ 長所と改善点

※ 2016年に提出された報告書は上記評価の結果が示されたが、2017年に提出された報告書については示されなかった。2018年の報告書の取り扱いは今時点では不明。

- 英語または仏語で書かれ、出来るだけ明確かつ簡潔で有益な情報を記載すること
- 最大15ページ（イラスト、関連統計データ、事例研究、調査、コミュニケーション資料を含む）
- 以下の情報を含めること（各章につき、記載すべき内容、推奨される記載内容について指定有り）
 1. 要旨
 2. 基本情報
 3. ネットワークのグローバルマネジメントへの貢献
 4. UCCNの目標を達成するために地域レベルで実施された主な取り組み
 5. UCCNの目標を達成するために都市間の協力を通じて実施された主な取り組み
 6. 今後4年間の中長期アクションプラン
- その他留意すること（2018年次総会でのユネスコ事務局からの助言・依頼事項）
 - ・ 結果だけでなくプロセスも記載する
 - ・ 目標が未達成の場合、現状の立ち位置、プログラムの成熟度、継続性を明らかにすればよい
 - ・ 失敗やチャレンジも記載してよい（失敗例もネットワーク内で情報共有し知恵としていく）
 - ・ 他都市との比較は不要
 - ・ 小さな動きでも社会包摂や協働、共創、多様性などをテーマとした取り組みを重視

4. 浜松市の報告書に盛り込むポイント

①推進体制の充実

- ・ 浜松市創造都市推進会議
- ・ ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会
- ・ 浜松アーツ&クリエイション

②市民の創造的活動の活発化

- ・ みんなのはままつ創造プロジェクト

③異文化理解への貢献

- ・ 楽器博物館の異文化理解のための取り組み

④国際的ネットワークへの貢献

- ・ ユネスコ音楽都市はままつ推進事業
(世界創造都市フォーラム 2015、世界音楽の祭典 2016、サウンドデザインフェスティバル 2017)
- ・ 音楽文化発信・交流事業 (ピアノコンクール、APBDA 大会)
- ・ 音楽文化都市交流事業 (ボローニャ、ハノーバー、札幌)

⑤UCCNIに対する貢献としての5つの基本方針

1. 世界的音楽イベントを通じた国際交流の推進
2. 音楽を通じた異文化理解と文化的多様性の実現
3. 国際レベルの人材の育成と交流
4. サウンドデザインの聖地としての貢献
5. 新しい価値を創造するファンタジスタの輩出

⑥今後4年間のアクションプラン

- ・ 「サウンドデザインの聖地としての貢献」の強化
- ・ 「新しい価値を創造するファンタジスタの輩出」の強化
- ・ 「音楽&音+α」への挑戦
- ・ 「音楽以外の他分野」との連携促進

【記載事業】

地域レベル	浜松アーツ&クリエイション 市民音楽ホール
国際レベル	サウンドデザインの探求 はままつ響きの創造プロジェクト